Newsletter of the Tottori Prefectural Museum

鳥取県立博物館ニュース

No. 27
MARCH 2019
平成31年3月発行

ジャスパー・ジョーンズ《旗Ⅰ》1973年 リトグラフ・紙　高松市美術館蔵　©Jasper Johns/VAGA at ARS, NY/JASPAR,Tokyo 2019 C2641

企画展　2019年4月13日(土)～5月19日(日)

2　ニューヨーク・アートシーン
ーロスコ、ウォーホルから草間彌生、バスキアまで
滋賀県立近代美術館コレクションを中心に

企画展　2019年7月13日(土)～8月25日(日)

3　手塚治虫のメッセージ：人と動物、共に生きるために

企画展　2019年10月5日(土)～11月4日(月・振休)

4　殿様の愛した禅　黄檗文化とその名宝

5　［自然］コラム　自転車で見に行く鳥取県のお宝（米子市和田海岸のハマナス群落）
6　［人文］資料紹介　イノシシがデザインされた江戸時代の紙幣
7　［美術］新収蔵品紹介　沖一峨《寒山拾得図》
　　コラム　子どもたちとアートをつなぐ ―「出会う・感じる・表現する」のサイクルで
8　美術館準備室コラム、学芸員派遣のご紹介

鳥取県立博物館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM

企画展　2019年4月13日(土)～5月19日(日)　休館日：5月7日（火）

ニューヨーク・アートシーン

ーロスコ、ウォーホルから草間彌生、バスキアまで　滋賀県立近代美術館コレクションを中心に

今年で平成も終わり、新しい時代を迎えようとしています。平成に先立つ昭和とは、多くの美術館が建設された時代でもありましたが、時の経過を経て、今や多くの美術館が改修や改築の時期を迎えています。大規模な改修は所蔵作品をまとめて借用する得がたい機会でもあります。このたび県立博物館では、現在長期の改修工事に入っている滋賀県立近代美術館が所蔵する名品を中心に「ニューヨーク・アートシーン」という展覧会を開催いたします。

滋賀県立近代美術館は戦後アメリカ美術に関する日本屈指のコレクションで知られています。それまでヨーロッパ、とりわけフランスで展開されていた西欧の近代美術は第二次大戦後、アメリカのニューヨークに舞台を移し、次々に画期的な表現が花開きます。抽象表現主義と呼ばれる巨大で動勢に満ちた、あるいは茫漠とした抽象絵画、日常と芸術の境界を取り払ったネオ・ダダの活動、さらにはアメリカという大量消費社会のアイコンとして知られるポップ・アート、そして美術や表現の限界を突き詰めるミニマル・アートやコンセプチュアル・アート。ニューヨークという都市を舞台に多様な美術運動が次々に登場し、それまでの美術の常識を塗り替えていきました。アメリカは移民の大国でもあります。世界中からこの都市に集まったさまざまな国籍の作家たちが活躍し、世界的な注目を浴びます。そこには桑山忠明や篠原有司男ら、多くの日本人作家も含まれていました。

マーク・ロスコ《ナンバー28》1962年　油彩・カンヴァス
滋賀県立近代美術館蔵
©1998 Kate Rothko Prizel & Christopher Rothko / ARS, New York / JASPAR, Tokyo C2648

マルセル・デュシャン《泉》1917/64年 小便器(磁器)/レディメイド(シュヴァルツ版ed. 6/8)京都国立近代美術館蔵
©Association Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2019 C2642

ニューヨークの美術はヨーロッパの近代美術とは大きく異なります。まず圧倒的なスケール、崇高といった感情を惹起するまでに研ぎすまされた作品があるかと思えば、卑俗な日常品が作品の中に導入され、過剰な表現と寡黙な表現がともにその極点をめざします。発表された時点では「美術ではない」と呼ばれた異形の作品が次第に歴史の中で重みを増し、ヨーロッパとは異なった新しい美術史をかたちづくっていきました。

展覧会ではおよそ半世紀にわたるニューヨークの美術をマーク・ロスコからアンディ・ウォーホル、草間彌生そしてバスキアにいたる約100点の作品で紹介いたします。滋賀県立近代美術館に加えて関西と四国のいくつかの美術館からも作品を借り受け、この分野における日本の美術館コレクションの充実を示す内容でもあります。鳥取で立ち上がった後、全国３会場を巡回する画期的な展覧会をどうぞお楽しみください。

（美術振興課　尾崎信一郎）

≪関連イベント≫ 開催時間：14時～15時30分　※ギャラリートークは15時まで
4月13日（土）・5月18日（土）ギャラリートーク
4月20日（土）映画上映会「ニューヨーク・ジャクソンハイツへようこそ」
4月27日（土）特別講演会「パクス・アメリカーナの夢と現実」講師：池上裕子
5月11日（土）アートセミナー「アメリカ美術の勝利」講師：尾崎信一郎

■企画展観覧料
一般/800円
（団体・前売/600円）

アンディ・ウォーホル《マリリン》1967年　10点組
シルクスクリーン・紙　滋賀県立近代美術館蔵
© 2019 The Andy Warhol Foundation for the Visual Arts, Inc. / Licensed by ARS, New York & JASPAR, Tokyo C2639

企画展　2019年7月13日(土)～8月25日(日)　会期中無休

手塚治虫のメッセージ：人と動物、共に生きるために

（主催）鳥取県立博物館、新日本海新聞社　（企画協力）手塚プロダクション

手塚治虫『大地の顔役バギ』より　©手塚プロダクション

「ニンゲン　ニクイ」。これはマンガの神様・手塚治虫（1928～89年）の『大地の顔役バギ』の１シーンです。ジャガーの子どもは、なぜこの言葉をつぶやいているのでしょう？

2018年は手塚治虫生誕90周年ということで、2019年11月まで全国で様々な事業が行われていますが、改めて手塚治虫のマンガを読んでみると、人と動物の関係について考えさせられるものが多くあります。

『大地の顔役バギ』の話は、人がジャングルを農園にしようと切り開き、そこにジャガーのすみかがあったところから始まります。その他、北海道で絶滅したエゾオオカミが主人公の『ロロの旅路』、特別天然記念物ニホンカモシカと人との対立を背景にした『ころすけの橋』など、手塚の動物マンガには人の営みの中に置かれた動物たちの苦しみや悲しみ、そして、そこから生まれる愛情や信頼関係などが描かれています。

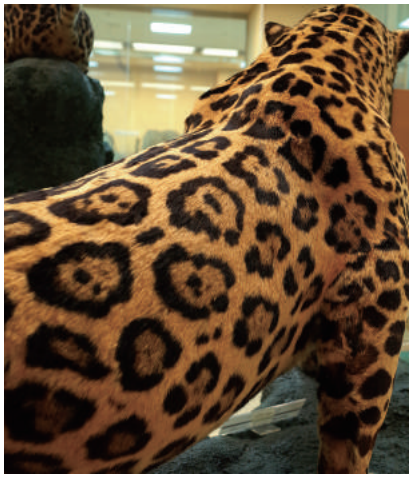
現在、地球上は第６回目の大絶滅時代と言われています。恐竜の絶滅など、これまでの大絶滅の原因は環境や気候の変化でした。しかし、現在の絶滅は違います。ほぼ100％、人の行為や活動に起因しているのです。飛ばない鳥ドードーの絶滅は、大航海時代の人の世界各地への進出が引き金になりました。そして産業革命以降、生物の絶滅は加速しています。一方で人という動物は、20世紀初頭に17億人でしたが、現在70億人を突破しました。今こそ、人と動物の関係を考えなければならない時代ではないでしょうか。

この企画展では、人との関わりの中で消えていった動物や、今まさに引き起こされている問題を、手塚治虫のマンガとともに紹介します。現在、オオサンショウウオを主人公にしたオリジナルマンガも、手塚プロダクションのアニメーター・小林準治氏に描いていただいています。この夏はぜひ当館で人と動物の関係を考えてみてください。

（学芸課　川上 靖）

ドードー（レプリカ）
群馬県立自然史博物館蔵
マダガスカル沖のモーリシャス島に生息していた絶滅鳥類

竹島で昭和6年に射殺されたニホンアシカのオス成獣『リャンコ大王』（剥製）　天王寺動物園蔵



ジャガー（剥製）　きしわだ自然資料館蔵

愛媛県で捕獲されたニホンオオカミの頭骨（実物）
愛媛県総合科学博物館蔵

≪関連イベント≫
会期中には関連イベントを予定しています。

■企画展観覧料：一般/700円（団体・前売/500円）

企画展　2019年10月5日(土)～11月4日(月・振休)　休館日：10月21日(月)

殿様の愛した禅　黄檗文化とその名宝

(主催)「黄檗」実行委員会(仮称)　(特別協力)黄檗山萬福寺、龍峰山興禅寺

「黄檗」や「黄檗宗」という言葉に馴染みがある人はそれほど多くないかもしれません。一方で、黄檗の日本伝来とともに普及した「いんげん豆」や「明朝体（文字フォント）」、「煎茶」、「普茶料理」などはよく知られ、私たちにとって大変身近なものとなっています。

この黄檗とは、江戸時代の承応３年(1654)に中国僧の隠元隆琦が日本に伝えた仏教です。正確には臨済宗黄檗派といい、明治以降、黄檗宗と名前を改めます。黄檗を伝えた隠元和尚は江戸幕府４代将軍徳川家綱の信仰を得て、宇治の地に黄檗山萬福寺を開創しました。この寺は隠元和尚が中国で住職していた萬福寺（古黄檗といいます）を再現したもので、現在も残るその伽藍を訪れると、重厚な建物は私たちに異国情緒を感じさせます。

中国からやって来た新来の仏教は、当時停滞していた仏教界に新風を吹き込んだと言われます。黄檗は武家や富裕な庶民を中心に信仰を広げ、18世紀ごろには黄檗寺院は全国で千ヶ寺を数え、とくに大名らの心をとらえました。

隠元隆琦像 部分 鳥取県立博物館蔵

黄檗山萬福寺(京都府宇治市)

鳥取藩においても初代藩主池田光仲は、自身が心服する菩提寺龍峰寺の提宗慧全やその弟子鉄牛道機などを通じて黄檗に触れ、のちに黄檗を信仰するようになり、鳥取藩内に黄檗寺院が数多く作られます。龍峰寺はのちに臨済宗妙心寺派から黄檗派へ転派し名前を興禅寺と改めます。興禅寺は、長州藩毛利家の東光寺、仙台藩伊達家の大年寺とならぶ「黄檗三叢林」として本山の住職や多くの僧侶を輩出しました。

黄檗がもたらす知識や文物は、江戸時代の日本文化に大きな影響を与えました。黄檗僧やその関係者がもたらす書画は、中国風を重んずる当時の知識人たちの心をとらえ、大いに流行しました。また、鎖国体制下、黄檗の伝来とともに数多く日本にやってきた中国僧は、江戸時代の中心的な学問である漢学（儒教）にも影響を与えました。江戸時代初めの鳥取城下でも、さきに紹介した提宗和尚を中心とした文化サロンができました。のち大坂で俳諧師として活躍する岡西惟中や『因幡民談記』の著者として知られる小泉友賢のほか、藩の儒者や藩士ら当時一流の文化人が集う場となり、黄檗は藩政黎明期の文化に重要な役割を果たしました。

華光菩薩像 興禅寺蔵

展覧会では、大名家における黄檗文化の歴史的意義について紹介します。また、宇治の萬福寺から隠元ゆかりの名宝や黄檗美術の絵画などをお借りして多数展示します。中国地方で初めて黄檗にスポットを当てた展覧会となりますので、ぜひご期待ください。

(学芸課　大嶋 陽一)

≪関連イベント≫
会期中の日曜日には、講演会、展示解説などのイベントを予定しています。

■企画展観覧料:一般/700円
(団体・前売・大学生・70歳以上/500円)
高校生以下無料

コラム

自転車で見に行く鳥取県のお宝（米子市和田海岸のハマナス群落）

ハマナスとは

ハマナスは砂浜海岸に生育する低木で、砂浜に河川が流れ込む立地を好みます。初夏には、直径６～７cmの花（図１）を咲かせ、バラ科の植物らしく枝に多くの鋭い棘があります。北方系の植物で、鳥取市白兎と大山町松河原の自生地は南限地として国の天然記念物に指定され、その他には鳥取市気高町船磯、琴浦町逢束、琴浦町別所、米子市和田に群落がある鳥取県の絶滅危惧種です。

図１：花を咲かせたハマナス（鳥取市白兎海岸）

米子市和田海岸のハマナス群落

弓ヶ浜の外浜に位置する和田海岸のハマナス群落は、波打ち際から群落まで起伏に沿って連続する海浜植生が特徴で、鳥取県内で唯一、侵食による砂浜の段差(浜崖)や道路に遮られていないハマナス群落です。ハマナスは、季節風や飛砂をしのげる砂丘の高まりの後ろ側の凹地に群落をつくっていて、本来の生態がよく現れています。すぐ脇には池ノ尻川も流れ、立地も典型的です。

ハマナス群落の始まり

後述の自転車道の工事に伴う環境調査で、1947年の航空写真から和田海岸には背の高い樹木がなく、海浜植物を含む砂浜が広がり、現在のハマナス群落の位置には、蛇行した池ノ尻川が流れていたと判明しています。また、当館が定点撮影している航空写真では、最も古い1968年の写真（図２）からも現在まで続く安定した群落を確認でき、植物標本庫には1970年に採集されたハマナスの標本が残されています。

つまり1947年から1968年までの間に池ノ尻川の流路が変わり、低地となった旧流路へハマナスが侵入したことで群落が始まり、現在まで続いていることになります。これは、河川が作り出す地形とハマナス群落の形成との関係を写真でとらえた希有で貴重な記録です。

図２：米子市和田浜の航空写真（１９６８年）
当館「郷土視覚定点資料収集事業」による
赤丸中がハマナス群落。その上に若いクロマツ植林地が広がる。

自転車道とハマナス

まもなく弓ヶ浜半島の景観を活かした自転車道が外浜に開通します。和田海岸では、ハマナスを含む連続した植生を分断しないよう、海岸から離れて内陸側を大きく迂回するルートが採用されました。

ハマナス群落だけでなく、周辺環境の価値も認められ事業に反映されたことは、大変意義深いことです。このような開発事業による環境への影響を軽減するための保全行為はミティゲーションと呼ばれ、生物多様性を保全する手法の一つとなっています。和田海岸をサイクリングするみなさまには、鳥取県のお宝として、大山を借景に咲くハマナスと、波打ち際から続く地形や植物を楽しんで頂けたらと思います。

本稿は鳥取県西部総合事務所道路都市課、米子市文化振興課の協力により執筆しました。お礼申し上げます。

（学芸課　清末（きよすえ） 幸久（ゆきひさ））

資料紹介

イノシシがデザインされた江戸時代の紙幣

写真は右から順に、 延宝４年(1676)発行 銀１匁札(小札)、 享保16年(1731)発行　銀１匁札、 宝暦４年(1754)発行　銀１匁札、 天明元年(1781)発行　銀１匁札、 文化３年(1806)発行　銀２分札、 天保２年(1831)発行　銀１匁札、 安政３年(1856)発行　銀１匁札、 明治元年(1868)発行　銀50匁札

今年の干支は亥ということで、今回は、江戸時代の鳥取藩で流通していた紙幣（藩札）と、亥との「猪ット」した関係をご紹介します。

藩札は、江戸幕府の許可を得て藩が発行し、原則として藩内のみで使用されました。明治時代に入り政府が回収して姿を消すまで、244藩が発行したそうです。地域によって主に取引される貨幣に違いがあったので、藩札には金札、銀札、銭札などの種類がありました。発行の目的は、市場での正貨（金銀）不足を緩和させることや、窮乏した藩が手元に正貨を吸収するための財政策だったといわれています。

鳥取藩では今から340年余り前の延宝４(1676)年に、初めて藩札を発行しました。この藩札には表に鶴と亀の絵柄が判で押されたほか、藩札の引き換えを保証した鳥取城下の有力商人である札座忠次郎と鶴屋善兵衛の名前が印刷されていました。そのことから別名「鶴屋札」と呼ばれました。しかし、ほどなく偽札が出回るなどして紙幣としての信用を失い、さらに幕府が藩札の発行を停止したこともあって、一時姿を消しました。

その後、停止が解除されると、鳥取藩は享保16（1731）年に、再び銀１匁を最高額とする４種類の藩札を発行しました。この藩札は表に縁起の良い大黒、裏には発行年の干支(辛亥)にちなんだイノシシの絵柄が印刷されました。江戸後期の鳥取藩士岡嶋正義は、イノシシの絵柄が用いられた理由として「融通が滞らないようにとの思いが込められているのではないか」（「因府歴年大雑集」県立博物館蔵）と推測しています。その後の藩札は、有力商人の助力もあって度重なる信用不安の危機を乗り越えながら、宝暦４年、天明元年、文化３年、天保２年、安政３年、明治元年と、ほぼ25年ごとに改判されました。これらの藩札には改判年とは関係なくすべてに「享保十六年辛亥」の年号が印刷されていますが、イノシシの図柄があるのは、享保16年の藩札だけで、後世まで「猪札」と呼ばれました。

ちなみに鳥取藩の藩札には、岩坪村（現鳥取市岩坪）の御用和紙が使用されました。楮を原料とし、その厚みは、おおむね0.25～0.35㎜で、常用の和紙に比べると５～10倍ありました。形は諸国の藩札と共通した短冊形をしていますが、発行された時期によって大きさには多少の違いがありました。たとえば明治期の藩札は、他よりも幅が広く、享保期の猪札は、縦に長いという特徴がありました。

（学芸課　来見田 博基）

享保16年（1731）発行　銀1匁札の裏面　上部にイノシシの絵柄が印刷された

新収蔵品紹介

沖一峨《寒山拾得図》

沖一峨《寒山拾得図》鳥取県立博物館蔵

まもなく、30年と４ヶ月続いた平成の時代が終わりを告げようとしています。私が博物館に勤務し初めて手がけた展覧会『沖一峨―鳥取藩御用絵師―』の開催が平成18年。今思えば、当時お世話になった70代以上の戦前生まれの方々は、みな一様に郷土の画家についての知識を、“素養”としてお持ちでいらっしゃいました。

ここに紹介する作品は、平成29年度に河原町の岸家よりご寄贈いただいたもので、前述の沖一峨の展覧会にも、故岸良尚様のご厚意により出品しました。初めて御自宅に調査に上がらせていただいた際、屏風や掛軸が生活の一部となって飾られた品の良い二階の客間に通していただき、御所蔵の作品を快く見せてくださったことは忘れられません。また、展覧会の内覧会の会場で「よくやった！」と労をねぎらってくださった時の満面の笑みは、この寒山拾得のように心温まるものでした。寒山と拾得は、唐の時代に天台山に住んでいたという伝説の人物ですが、本作にみる二人の楽しげに笑い合う姿や拾得の踊るようなポーズは、一峨の軽妙な筆捌きと相俟って軽快で、二人の俗世を離れた無邪気な様子が巧みに表現されています。

岸家からは本作のほか、土方稲嶺や黒田稲皐、沖探容、根本幽峨、菅楯彦等鳥取の画家の作品を一括して御寄贈いただきました。この度のご厚意とこれまでのご恩情にこの場を借りてお礼申し上げます。

戦前戦後の世代間の断絶は深く、郷土の画家についての見識を“素養”としてお持ちの方はごく限られてきましたが、今後また、興味・関心が持たれる日が来ることを期待しています。

（美術振興課　山下 真由美）

コラム

子どもたちとアートをつなぐ

―「出会う・感じる・表現する」のサイクルで

▲写真１　鳥取市立面影小学校　第２学年　田村 真之助（たむら・しんのすけ）さん《ダイヤモンド大山と夢の最強オオカブトムシ》

▶写真２　鳥取市立宮ノ下小学校　第２学年　尾﨑 円（おさき・まどか）さん《さくひんがおもしろかったよ》

館内外で教育普及事業を実施した後、保護者や学校の先生方から嬉しいご連絡をいただくことがあります。

写真１は小学２年生の男の子の黒板アートです。昨年の夏に鳥取市内の小学校で実施した武蔵野美術大学学生による「黒板ジャック」に感動し、「今度はムサビの人たちをびっくりさせよっか！」と始まった制作は、普段日常には存在しない黒板を探すところからのスタート。初めてのチョークに四苦八苦し、たくさんのハプニングを乗り越えて描くこと４ヶ月。縦１ｍ横２ｍの作品が「クリスマスイブの日にやっと完成させることができました。」と保護者からお手紙が届きました。

写真２も小学2年生の作品です。「今年一番心に残ったこと」というテーマに、たくさんの出来事の中から企画展「土方稲嶺」への来館を選んでいます。掛け軸や屏風などは小さい子どもにはつまらないだろうという大人の思い込みを払拭する一枚です。虎の掛け軸を見ている４人の口元は、あいたり閉じたりしています。もしかしたら、絵を見て感じたことを話したり聞いたりして楽しんでいるのかも知れません。放課後の教室でこの絵を見つけた日直の先生が情報をくださいました。

このような姿を知る度に、子どもたちが本物と出会うことの大切さを再確認します。いただいたお手紙の言葉を借りれば、「（様々なアートとの出会いは）当然のことながら一方通行的なものではなく、ちゃんとこうやって子どもたちの感性を刺激し心と体を動かしているんだという証」がそこにあるからです。同時に、このような心の動きを敏感に感じ取り寄り添える感性を持った大人の存在が、その出会いの質や量を大きく左右するのだと感じます。子どもたちとアートとの出会いを、みなさんとともにつくりたいと願っています。

（美術振興課　佐藤 真菜）

コラム「私たちの県民立美術館」の動き

建設予定地（倉吉パークスクエア隣接）

「未来を『つくる』美術館」をコンセプトに、新たな県立美術館を倉吉市（倉吉パークスクエア隣接）に整備します。（平成36(2024)年度中に開館予定）これまでの県立博物館の美術部門を引き継ぎつつ、さらに充実した展開を図っていきます。

官民連携による美術館

美術館の整備・運営にあたっては、民間事業者のノウハウと創意工夫を取り入れるPFI手法※を導入します。美術館としてのデザイン性も重視しつつ、より多くの方に利用していただくことと、県の財政負担の縮減を図ります。

また、以下の①②のような役割を果たしながら、民間事業者と県学芸員の協働連携により、魅力ある事業の企画・運営を行う体制を構築していきます。

①県は、美術作品の収集、保存、調査・研究、展示、教育普及等を中心とする学芸部門の中核業務を引き続き実施します。

②民間事業者は、総務・施設管理、広報・宣伝・賑わい創出機能等の業務を実施します。

今後の主なスケジュール

現在、PFI事業者選定に向けた準備を進め、早ければ今年夏頃に入札公告、来年初め頃に事業者を決定し、設計・建設に着手していくこととなります。その際には、事業者の提案内容を公開プレゼンするなど、県民のみなさんとのコミュニケーションを図りながら、これまで続けてきたオープンな美術館づくりを継承していきます。

美術館に関する情報は、こちらのホームページに掲載しています。

鳥取県立博物館ホームページ（美術館特設ページ）
https://www.pref.tottori.lg.jp/artmuseum/

※〈PFI〉Private Finance Initiativeの略

公共施設等の建設・維持管理・運営を、民間事業者の有する経営ノウハウや資金の活用によって、低廉かつ良質な公共サービスを提供することを目的とする公共事業の手法の一つ。

鳥取県では、建設や改修の費用が10億円以上の場合や運営費が年間1億円以上の場合など、従来の県直営実施に優先して民間の経営ノウハウや資金を活用するPFI手法を検討することとしています。

（美術館整備準備室　石原（いしはら） 理絵（りえ））

学芸員が地域や学校へ!!　学芸員派遣　随時受付

博物館学芸員は地域や学校に出向き、専門的な知識で皆様の活動を支援しています。
主催者の希望や参加者の年齢に合わせて行いますので、お困りの際はぜひご相談ください。

事例紹介
野外活動に講師派遣！

大茅地区公民館様（国府町）のイベント『雨滝鉱山・木原坑探索』に地学担当学芸員が同行し、地元の方々と一緒に木原坑跡（坑道跡）を探索しながら、その周辺の地質や採掘されていた「鉱石」について解説しました。
（平成30年3月23日撮影、写真奥が木原抗跡）

支援内容

- 子ども会、公民館を中心とした地域の社会教育団体活動における講演会など
- ＰＴＡ活動や職員研修
- 児童生徒を対象とする講演会・出前授業、野外学習等
- 授業を行う上での学術的なサポート

テーマ例

※近年依頼の多くあったもの

▼自然
鳥取県の化石・動物・昆虫・植物、身近な自然観察など

▼歴史・民俗
郷土史講座（郷土の歴史・民俗）、土器づくり体験〈子ども向け〉など

▼美術
鳥取県の美術の概要や作家についてのレクチャー、希望や対象に応じたワークショップなど

詳しい手続きなどは、以下のサイトからご覧ください。
https://www.pref.tottori.lg.jp/school/
お問合せ・鳥取県立博物館学芸課普及担当　TEL0857-26-8044

鳥取県立博物館ニュース No.27
平成31年（2019年）3月28日発行
編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857(26)8042(代)
FAX 0857(26)8041
URL https://www.pref.tottori.lg.jp/museum/
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.lg.jp

当館HPはこちらから

facebook 更新中！

■入 館 料：常設展／一般180（150）円
（　）内は20名様以上の団体料金
■開館時間：9時～17時（入館は16時30分まで）
19時（入館は18時30分）まで開館する場合あり。詳細はお問い合わせください。
■休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日が休館日）
国民の祝日の翌日（土、日、祝日の場合を除く）
年末年始（12月29日～1月3日）
※具体的な休館日等は、ホームページでご確認ください。

■JR鳥取駅からバスで
●Ⓐ100円バス「くる梨」緑コース「⑪仁風閣・県立博物館」下車すぐ
●Ⓑループ麒麟獅子「③鳥取城跡」下車すぐ
●Ⓒ砂丘・湖山・賀露方面行「西町」下車、約400m
●Ⓓ市内回り岩倉・中河原方面行「わらべ館前」下車、約600m
■JR鳥取駅からタクシーで…約10分
■鳥取砂丘コナン空港から…鳥取駅行連絡バス「西町」下車、約400m
■お車で…鳥取自動車道・鳥取ICより約15分
※当館駐車場21台駐車可能・満車の場合は県庁北側駐車場［無料］へ

お客様の満足のその先へ…
MORRIX
株式会社モリックスジャパン
TEL 0857-23-3641
本　社　鳥取市商栄町２０３－６
倉吉店　倉吉市下田中町８７０　中瀬ビル３Ｆ
http://www.morrix.co.jp/

We Find the Way
日本通運
NIPPON EXPRESS
鳥取支店　0857-28-0202